

そ てんち とく めいあく もの こ たいほんたいそう い てん わ
 夫れ天地の徳に明白なる者は、此れをこれ大本太宗と謂う。天と和
 する者なり。天下を均調する所以は、人と和する者なり。人と和
 する者はこれを人樂と謂い、天と和する者はこれを天樂と謂う。
 ばんぶつ な ぎ な たく ばんせ およ じん な じょうこ
 万物を成せども義と為さず、沢は万世に及ぶも仁と為さず。上古
 に長ぜるも寿と為さず、天地を覆載し衆形を刻彫するも巧と為
 さずと。此れをこれ天樂と謂う。
 こ てんがく い

【大体の意味内容】

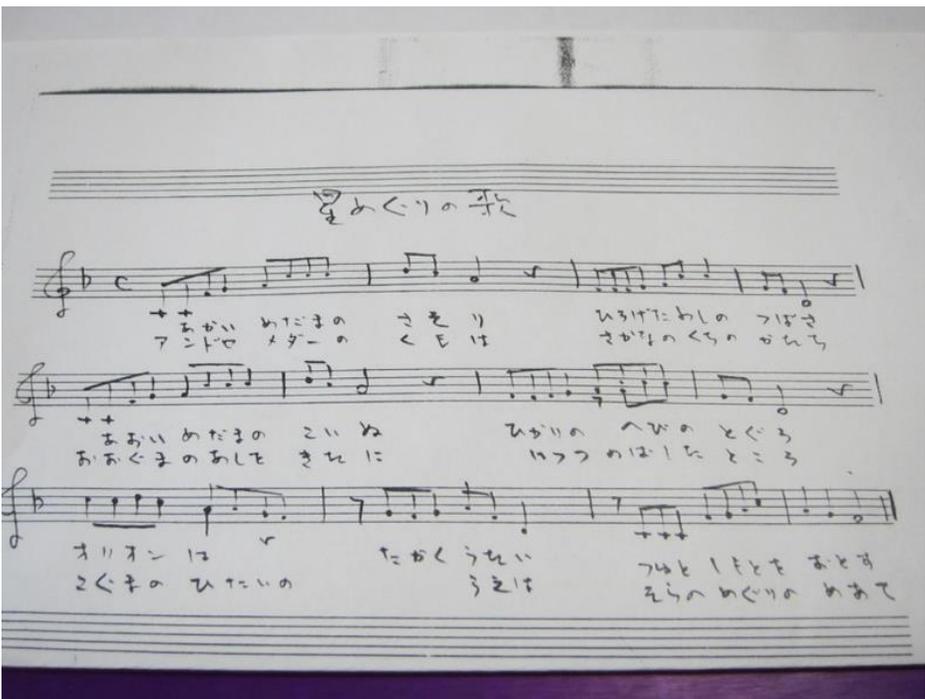
そもそも天地自然の徳、大いなる流動循環を為しながら鏡の湖面の如き静けさを湛える
 はたらきに達した者は、宇宙の大本にして太宗すなち絶対の核心である。天という、森羅
 万象の多様性を生かしたまま、調和するものである。天下の乱れを均え、武力によらず
 調節してゆくための手立ては、多種多様な人々の、その個性を生かしたまま調和させるこ
 とである。(様々な音の色を殺さずに調和させることを音楽というが、)多士濟々の人々が
 調和することは、人樂と言えよう。天に無限に存在する星々、その中のありとあらゆるモ
 ノや生命や靈魂の調和を、天樂と言う。天は、万物を生成させるが、それを以て正義を成
 し遂げたと誇るわけではない。世を潤す恵沢は千代万代に及ぼうとも、殊更、仁徳を施
 したとひけらかしはしない。遙かな太古から存在していても、長寿であると主張もしな
 い。天地全体を覆い尽くし、その間の生きとし生けるものごとくを造形しても、巧匠
 としての名誉を求めない。このように、あらゆる作為や欲望を排し、宇宙のすべてが調和
 して奏でるものを、宇宙交響樂、すなわち天樂という。

宇宙の波動を思わせるような荘嚴な曲は色々ありますが、ここでは宮沢賢治作詞作曲の、『星めぐりの歌』(注田中井ゆか)。

星めぐりの歌

宮沢賢治作詞作曲

あかこめだまの　くまの
つんぱだまの　しほれ
あまこめだまの　こいぬ
ひかのくひの　よん。
オリオンは高く　うたひ
しほこまじを　おまじ、
アンドロメダの　くまは
あかなのくひの　かたが。
大へまのあしを　きたに
五つ甲のほった　よん。
小熊のひだいの　うへは
なみのめぐりの　めあし。
(北極星)



夏の星座。なぞり座。赤い目玉はアンタレス。わし座のつばさは、夏の大三角。

冬の星座。こいぬ座。青い目玉はプロキオン。オリオンと、おおいぬこいぬで冬の大三角。

へび座。夏。

オリオン座。冬。

秋の星座。アンドロメダ座大銀河。

春の星座。おおへま座、くま座。空のめぐりの目当てとなる中心は、ホラシリス北極星。

YouTUBEで「星めぐりの歌」と検索すればいろんな歌い手のバージョンが出てきますので是非聞いてみてください。私としては田中裕子のものがおススメ。

春の星座から順番に巡るといふ流れにはせず、夏と冬、秋と春という対極にある星座を対句の様に組み合わせますが、必ずしもバランスよく詩句の形式を整えようとせず、そら宇宙に星座

なれた生命たちを淡々と描く。対極の季節が空に刻んだ十字文が、ぐるぐる巡って中心点に北極星をイメージさせる。実際の位置関係にとらわれずそんな宇宙イメージを朗らかに歌った、ある意味「お経」であり、聖歌なのだと思います。